

【四季を通じた集客にむけた取組み】

近年の暖冬・少雪傾向により、冬シーズンのスキー場運営に大きな影響がでている。この中で、スキー場資源を活かしてトレッキングコースや新たな名所づくり、花畑として整備する等、四季を通じて魅力を発信している。

スキー場名	とりくみの概要
らいちょうバレー スキー場 (富山県)	2007年からグリーンシーズンの集客を強化。 ・ゴンドラの運行を開始した。 ・「花のゲレンデ大作戦」 ゲレンデを花畑として整備。広さは約6ヘクタール。 春秋には花が咲き乱れ好評を得ている。 夏にはひまわり畑となり、種まきイベントも実施。 ・トレッキングコースの整備 隣接する極楽坂スキー場までの約5kmのコースを整備、山歩きを楽しんでもらう。
となみ夢の平 スキー場 (富山県)	ゲレンデを花畑として整備 ・「コスモスウォッチング」を秋に開催。多くの来場者がある。 すいせん畑も整備し、地元のイベント「となみチューリップフェア」との連携イベントとして集客力を高めている。
イオックスアローザ スキー場 (富山県)	・「ジムカーナコース」の設置 駐車場スペースを活用。 ・「ドッグラン」の設置 ゲレンデで犬を自由に遊ばせることができる。
大倉岳高原スキー場 (石川県)	・ゲレンデをコスモス花畑として整備 「コスモスオーナ」を募りコスモス畑オーナとして、春には種まきイベントを実施している。 このほか、ゲレンデの草刈りを行い、「草文字」(オオクラ)をつくった。
スカイ獅子吼 (石川県)	・多彩なイベントの開催 スカイスポーツの基地として定着。 全国規模の競技大会のほか、「大空芸人」大会など、スポーツ競技ではなく、参加者が仮装して大空に飛び立ちその面白さを競うもの等、ユニークなイベントが開催されている。